

令和2年6月2日
子ども・福祉部少子化対策課

「みえ子どもスマイルレポート」(案) について

「希望がかなうみえ 子どもスマイルプラン」に基づく施策の実施状況や重点的な取組の実績等を取りまとめた「みえ子どもスマイルレポート<令和2年度(2020年度)版>」について、**資料 1-3**のとおりといたしたい。

1 総合目標及び重点的な取組の進展度について **資料 1-2**





(1) 総合目標の状況

「合計特殊出生率」：令和元年の実績値 現時点で未発表(6月上旬頃公表予定)

「地域社会の見守りの中で、子どもが元気に育っていると感じる県民の割合」

：令和元年度の実績値 51.2%(前年度▲0.3%)

(2) 14の重点的な取組の進展度

	平成30年度	令和元年度
 進んだ	6	4
 ある程度進んだ	5	8
 あまり進まなかった	3 「保育・放課後児童対策などの 子育て家庭の支援」 「男性の育児参画の推進」 「発達支援が必要な子どもへの 対応」	2 「保育・放課後児童対策などの 子育て家庭の支援」 「発達支援が必要な子どもへの 対応」
 進まなかった	0	0

2 令和元年度の総括(概要) **資料 1-3 P. 23**

県の少子化対策については、14の重点的な取組のうち進展度が「進んだ」「ある程度進んだ」項目が12項目あり、取組は一定進んだと考えられます。平成30年度に「あまり進まなかった」3項目の取組のうち、「男性の育児参画の推進」について、男性の育児休業取得率は目標に達しなかったものの、大きく上昇し過去最高となり、また「みえのイクボス同盟」への加盟団体数が大幅に増え、全国1位の加盟数とすることができました。

一方で、引き続き2項目の取組が「あまり進まなかった」であったことや、2つの総合目標が目標水準とかい離があったことから、課題も残りました。

令和元年度から全国で患者の発生がみられる新型コロナウイルス感染症による影響は、子どもや子育て中の人、結婚を希望する人、それぞれの支援者や協力者など社会全体に及んでおり、これらの影響をふまえた上で、子どもや子育て等にかかる各施策を実施するにあたって、新しい生活様式や価値観の変化への対応が求められています。

そのような中、第二期スマイルプランで掲げた、「縁を育む、縁で支える」という基本的な考え方は、より重要な視点になってくると考えます。県では、人と人のつながりを大切にし、企業や関係団体、市町などさまざまな主体と協創して、県民の皆さんの希望がかなうよう取組を進めていきます。

3 今後のスケジュール

令和元年の合計特殊出生率が公表され次第、レポートに反映し、6月22日開催の医療保健子ども福祉病院常任委員会にて説明のうえ、県ホームページへの掲載などにより周知を図ります。